

# AKITA PREFECTURAL UNIVERSITY 2025



# 秋田県立大学の 未来に向けての 取り組み

【理事長・学長】

福田 裕穂 [ふくだ・ひろお]

1953年 静岡県浜松市出身。

1982年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了(理学博士)。

東北大学理学部教授、東京大学理学系研究科教授・理学系研究科長、東京大学理事・副学長、  
京都先端科学大学バイオ環境学部長を歴任し、2023年4月より現職。

今、世界は大きな転換期を迎えています。これまで、世界はグローバル化が進み、その結果、人々の生活は豊かになり、多くの病気も克服され、安全で幸せな未来が待っていると、楽天的に考えてきました。しかし、この数年の間に、ミャンマーでの軍事クーデター、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ侵攻などの軍事行動が起き、台湾と中国との緊張は抜き差しならないところまで来ていて、世界は融和から分断へと逆戻りしています。また、新型コロナウイルスの世界的規模での蔓延、人間活動に伴う二酸化炭素濃度の上昇による地球温暖化など、グローバル化に伴う深刻な危機が次々と訪れ、グローバル化の負の側面もまた明らかになったのです。このグローバル化の明と暗が反転するかもしれない転換期において、真に必要なのはローカルとグローバルをしなやかに行き来する“知”であり、その知を身につけ実践する人です。

秋田県立大学は、1999年に創設された新しい大学で、システム科学技術学部・研究科、生物資源科学部・研究科をもち、多数の優れた施設を抱える理系大学です。これまでに「真理探究の精神をもち、広い視野と柔軟な発想のもと、豊かな創造力で、21世紀を切り開いていく人材を育成するとともに、先端的な研究や技術開発を行うことで、秋田県の持続的発展に貢献する」を目標に、グローバルとローカルを共に見据えながら、知の創造と人材育成の実績を積み重ねてきました。その依って立つ秋田県は、自然に恵まれ、広い農地や森林などの資源を有し、電子部品・デバイスなどの未来型産業の発展している地域で、まさにローカルか

らグローバルへと展開する知の実践の場として優れています。

私が赴任して2年が過ぎました。この間、未来の秋田創造に向けてさまざまな取り組みをしてきました。2023年9月には、10年後の未来を見据えて、新たなビジョンとアクションをセットとした、秋田県立大学ビジョン2033を公表いたしました(右ページ)。このビジョンに沿って、企業、自治体、県民の皆様と共に、地域の課題解決に努めるとともに、地域から出発し、国際的価値を持つ研究、グローバル人材の育成、世界課題解決のための技術開発を推進しています。また、昨年度から3学科でスタートした、『キャップストーンプロジェクト』は、今年度からシステム科学技術学部の全学科に拡張されます。このプロジェクトは、企業等が抱えているビジネス課題と学生が向き合い、解決に近づくための方法を探るという非常に実践的なものです。学生は社会や企業等の実態と社会的課題を、リアリティーを持って知る良い機会となりますし、企業等は学生をよく知り、さらには学生を鍛える中で、より良い人材を確保できる機会となり、自治体にとっては学生の地域密着型の活動や定着のきっかけなどのメリットがあると考えられます。ですので、企業の皆様には、ぜひ参加していただきたいと考えています。また、これからのグローバル社会においては、中小企業であっても海外企業と交渉するにあたっては、博士人材が必須です。秋田の地元の大学として、企業の皆様と一緒に社会人博士の育成にも積極的に取り組むつもりとしています。

以上、秋田県立大学は未来を見つめながら走り続けますので、今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## ビジョン1:〔教育〕「知の器」を広げる —タフで、優しく、挑戦的に

世界の転換期にあたり、将来が見通せない状況となっています。転換期においては、国際的視野と、これまでの常識にとらわれない発想と行動が必要となります。本学では、こうした世界の状況にあって、未来の世界の中核として活躍できる学生の育成をめざし、「タフで、優しく、挑戦的に」をモットーにして、学生の知の器を広げる教育を行います。

## ビジョン2:〔研究〕未来の知を創成し、地域の課題解決／国際共創の中で知を鍛える

転換期においては、既存の知識を学ぶだけでは不十分で、知の創造が必要です。新しい知のシーズは、個人の思いや好奇心をとことん追求した中で生まれます。大学の目標である、真理探究の精神をもち、広い視野、柔軟な発想、豊かな創造力のもと、これに挑戦します。一方で、世界が複雑になる中で、未来をつくる知の創出には、さまざまな知恵や技術の連携・融合が必要です。そのため、大学内の農工融合を推進するとともに、大学を超えた研究連携を推進します。知のシーズは社会の中で磨かれて初めて真の知となります。地域の課題解決に向けた先端研究を知のシーズの鍛錬の場として強力に推進します。同時に、国際的な競争、共創の中で知を鍛錬します。

## ビジョン3:〔社会連携〕地域の課題解決から世界へ展開するローカルからグローバルへ

秋田県は課題先進県で、農業の高齢化、人口減少、地球温暖化による環境劣化など、世界共通の課題を抱えています。これらの課題解決に向けて、スマート農業、食の6次産業化、未来型の森林利用、グリーントランスフォーメーションなどの産・農・学・公共創研究を展開します。この課題解決は地域の新産業・新農業創出に貢献するだけでなく、得られた知を世界と共有することにより、未来の世界の創成を先導することができます。

## ビジョン4:〔運営・経営〕多様性に富む場を形成し、大学を活性化する

激動する世界の中で、未来を志向する研究・教育の体制は、それに相応しいものに変えていく必要があります。分野融合研究の推進体制の構築、国際化に対応した組織変革、多様性に目を向けた制度改革を行います。改革を、スピード感をもって進めるためには、学長のリーダーシップが必要ですので、リーダーシップが発揮できる体制とそれをチェックする体制を整備します。

## 今後のアクション

### ▶アクション1:〔教育〕

- ① 自主的に課題を解決する教育の推進
- ② 国際性を鍛える教育の充実
- ③ 農工連携教育の強化
- ④ 教養教育の強化
- ⑤ 起業家育成教育の推進
- ⑥ 大学院教育の強化

### ▶アクション2:〔研究〕

- ① 知のシーズとなる独創的研究の推進
- ② 産業や農業との共創による知の実践研究の推進
- ③ 農工融合研究の促進
- ④ 新たな知の創成プロジェクトの推進

### ▶アクション3:〔社会連携〕

- ① 自治体・地域企業・地域農業者団体との連携による地域課題解決への貢献
- ② 学生参加型地域活性化プログラムの推進
- ③ リカレント、リスキリング教育を介した地域の活性化の推進
- ④ 地域への知の発信の強化

### ▶アクション4:〔運営・経営〕

- ① 大学運営体制の見直し
- ② 秋田国公立大学連携の強化
- ③ 大学入学者獲得に向けた取り組みの強化
- ④ 4キャンパスの連携の強化
- ⑤ 不断の大学内組織の見直し
- ⑥ 卒業生・支援者ネットワークの強化
- ⑦ 広報活動の強化

## 法人概要

- 1 理事長・学長挨拶  
秋田県立大学ビジョン2033
- 2 沿革・予算規模・  
教職員数・秋田県立大学組織図
- 3 法人組織図・事務局組織図

## 大学情報

- 4 基本理念・三つのポリシー  
中期目標・中期計画
- 5 本学の特長
- 6 システム科学技術学部
- 7 生物資源科学部
- 8 アグリイノベーション教育研究センター
- 9 バイオテクノロジーセンター
- 10 総合科学教育研究センター
- 11 木材高度加工研究所
- 12 大学院

## 地域貢献

- 13 地域連携・研究推進センター
- 14 地域貢献活動
- 15 国際学術交流

## データベース

- 16 在籍者数
- 17 進路・進学状況
- 18 研究紹介
- 19 決算報告/外部資金
- 20 特許シーズ

## キャンパス概要

- 21 本荘キャンパス  
秋田キャンパス  
大潟キャンパス  
能代キャンパス

## 沿革

平成6年(1994)	12月	秋田県立大学構想検討委員会 「県立大学構想について」報告
平成7年(1995)	5月	県立大学設置準備事務局設置
	8月	秋田県立大学 基本構想策定委員会設置
平成8年(1996)	7月	(仮称)秋田県立大学基本構想策定
	10月	(仮称)秋田県立大学 創設準備委員会設置
平成10年(1998)	12月	秋田県立大学条例議決
	12月	秋田県立大学設置認可
平成11年(1999)	4月	開学
平成14年(2002)	4月	秋田県立大学大学院 システム科学技術研究科設置
平成15年(2003)	4月	秋田県立大学大学院 生物資源科学研究科設置
平成18年(2006)	4月	生物資源科学部 アグリビジネス学科設置
	4月	公立大学法人秋田県立大学設立
平成21年(2009)	6月	開学10周年記念式典開催
平成24年(2012)	4月	秋田県立大学大学院 共同ライフサイクルデザイン工学専攻設置
平成30年(2018)	4月	システム科学技術学部 機械工学科・知能メカトロニクス学科・情報工学科設置
令和元年(2019)	6月	開学20周年記念式典開催
令和3年(2021)	4月	アグリイノベーション教育研究センター設置
令和4年(2022)	4月	秋田県立大学大学院(博士前期課程) 総合システム工学専攻設置 共同サステナブル工学専攻設置

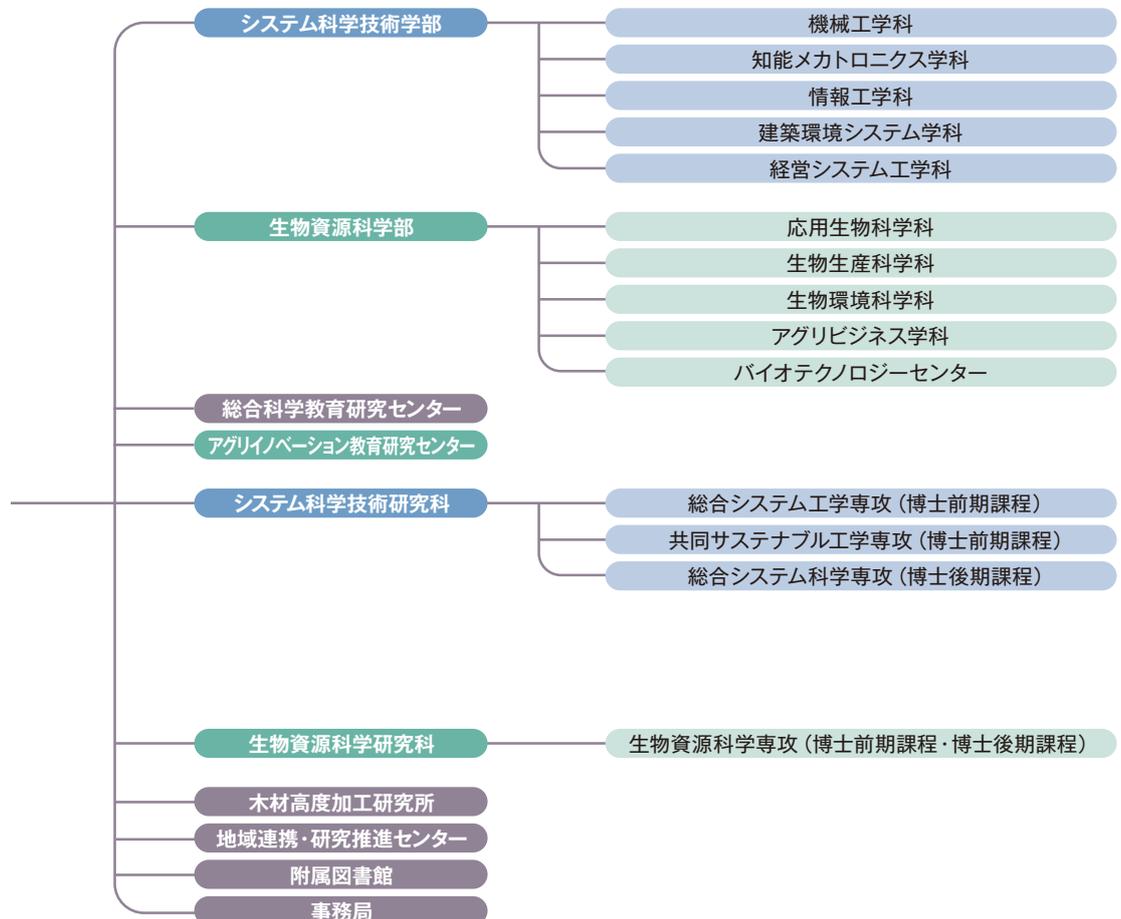
## 予算規模

令和7年度予算5,786百万円  
(内運営費交付金3,571百万円、施設設備等補助金191百万円)

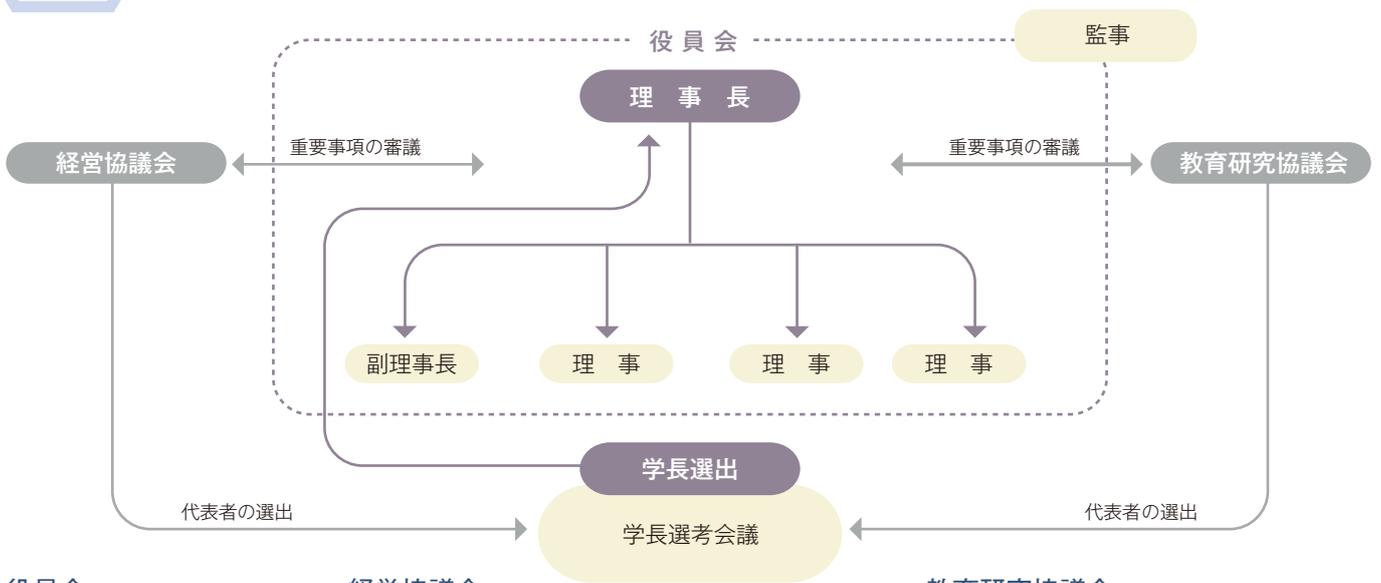
## 教職員数

- 教職員総数457名(嘱託・非常勤含む)  
内訳
  - 教員総数184名(教授68名、准教授75名、助教41名)  
うち女性教員20名(教授3名、准教授7名、助教10名)  
うち外国人教員10名(教授3名、准教授4名、助教3名)
  - 事務等職員273名
- (令和7年4月1日現在)

## 秋田県立大学 組織図



# 公立大学法人 秋田県立大学の法人組織



## 役員会

理事長(兼学長)	／ 福田 裕穂
副理事長	／ 平野 浩之
理事(兼副学長)	／ 蒔田 明史
理事(兼副学長)	／ 水野 衛
理事	／ 真壁 善男
理事	／ 河野 隆治
監事	／ 佐藤 時幸

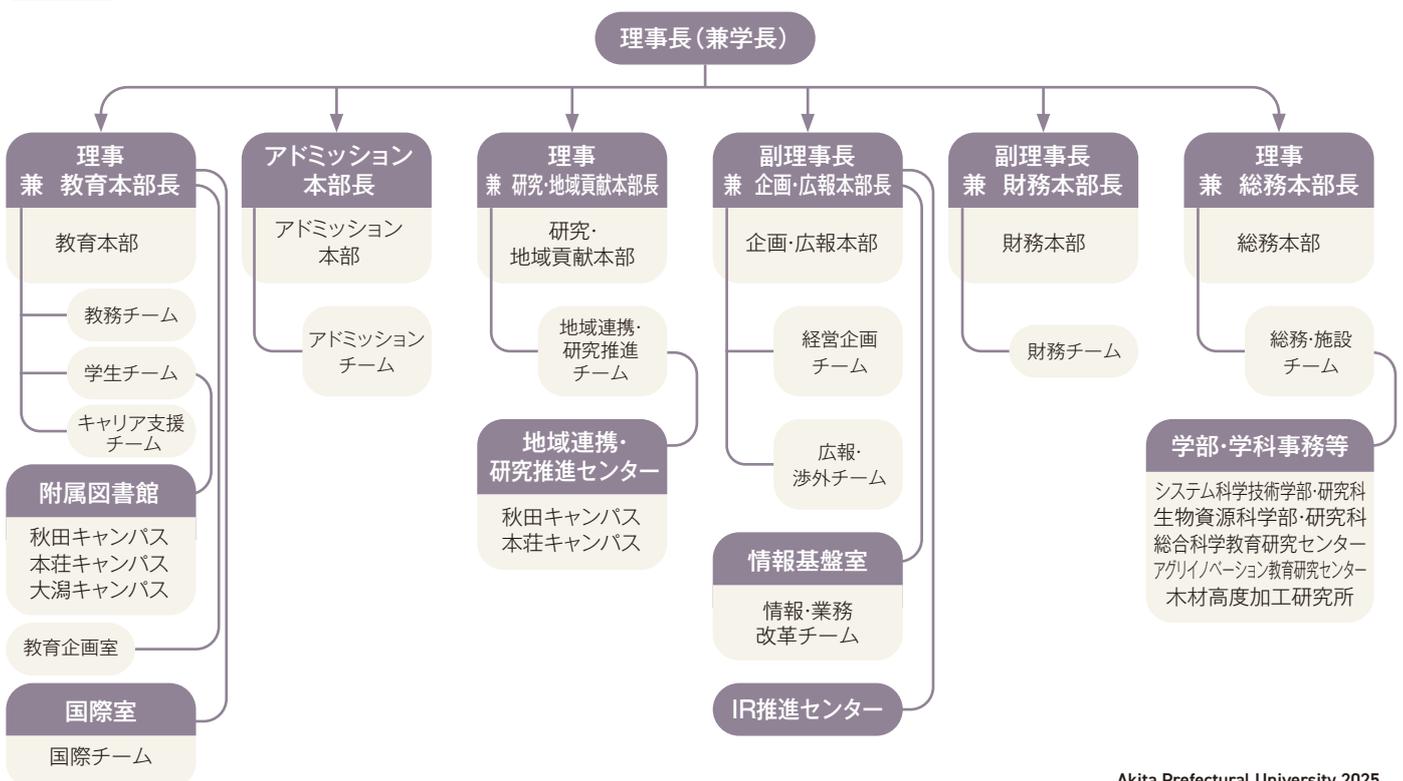
## 経営協議会

フィアホールディングス株式会社取締役会長兼株式会社北部銀行取締役	／ 伊藤 新
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構機構長	／ 川合 眞紀
株式会社リクルート リクルート進学総研所長	／ 小林 浩
秋田県商工会議所連合会会長	／ 辻 良之
日本赤十字社常任理事	／ 板東久美子
秋田県教育長	／ 安田 浩幸
理事長(兼学長)	／ 福田 裕穂
副理事長	／ 平野 浩之
理事(兼副学長)	／ 蒔田 明史
理事(兼副学長)	／ 水野 衛
理事	／ 真壁 善男

## 教育研究協議会

理事長(兼学長)	／ 福田 裕穂
副理事長	／ 平野 浩之
理事(兼副学長)	／ 蒔田 明史
理事(兼副学長)	／ 水野 衛
システム科学技術学部長	／ 西田 哲也
生物資源科学部長	／ 長濱健一郎
総合科学教育研究センター長	／ 内山 応信
アグリノベーション教育研究センター長	／ 西村 洋
木材高度加工研究所長	／ 高田 克彦
システム科学技術学部教授	／ 石井 雅樹
システム科学技術学部教授	／ 山口 高康
生物資源科学部教授	／ 佐藤 孝
生物資源科学部教授	／ 重岡 徹
本荘キャンパスリーダー	／ 高橋 晃

# 公立大学法人 秋田県立大学における本部体制[事務局組織図]



# 基本理念・三つのポリシー

## 基本理念

### 21世紀を担う次代の人材育成

真理探究の精神と、未来を切り拓く幅広い視野・柔軟な発想や豊かな創造力を兼ね備えた、21世紀を担う次代の人材を育成すること。

### 開かれた大学として、秋田県の持続的発展に貢献

先端的な科学の研究及び技術の開発を行うことにより、地域産業の高度化を通じた本県の産業振興に寄与するとともに、県民に対して生涯にわたる高度な教育機会を提供することにより、本県の持続的発展に大きく貢献すること。

## 三つのポリシー

### 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

本学は、現代社会が直面する諸問題を解決することを目指して、下記の能力を身につけ、卒業に必要な単位を修得した学生に学位を授与する。

#### 【知識・理解・技術】

1 各専門分野の知識・技術を習得し、活用する力を身につけている

#### 【教養・基礎的能力】

2 幅広い教養と、外国語能力、情報活用能力、コミュニケーション能力などの基礎的能力を身につけている

#### 【態度・志向性】

3 多様な価値観を有する人々と倫理観・責任感をもって協働することができる

4 時代の変化に主体的に対応するため継続的に学び、自律的に行動することができる

#### 【問題発見・解決能力】

5 専門の知識・技術および基礎的能力を統合し活用して、問題を発見し解決する能力を身につけている

#### 【グローバル・創造的思考力】

6 地域的・国際的視点をあわせもち、また、新たな価値を創造する力を身につけている

### 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

本学では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材養成のため、教育課程編成・実施の方針を次のとおりとする。

#### 【順次性・体系性を重視したクサビ型カリキュラム】

専門の知識・技術およびそれらを活用する力と、グローバルな視点、幅広い教養と基礎的能力を育成するために、教養科目と専門教育科目の体系的な教育課程を編成する。その際、1年次から専門教育科目を配置するとともに、3・4年次においても教養科目が履修できるクサビ型カリキュラムを採用する。

#### 【多様な教育方法による資質・能力の育成】

実践的な知識・技術、問題を発見し解決する力と創造力を育成するため、演習・実験・実習を重視した教育課程を編成するとともに、卒業研究を実施する。また、社会で必要となる協調性・責任感や生涯学習能力を育成するため、少人数による能動的な学修および多様な教育方法を組み合わせた授業を行う。

#### 【単位制度の実質化と厳格な学修成果の評価】

登録単位数の上限設定を通して十分な学修時間を確保するとともに、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に対応した到達目標と、厳格な評価基準に基づいた成績評価を行う。

### 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

本学では、次のような資質を持つ学生を受け入れる。

#### 【知識・理解・技術】

1 高等学校等で修得すべき基礎学力を身につけていること

2 明確な目標をもち、実現に向けて思考し判断して行動し、その成果と課題を的確に表現する力を身につけていること

3 旺盛な知的好奇心をもって主体的に行動し、多様な人々と協働して学び続ける力をもっていること

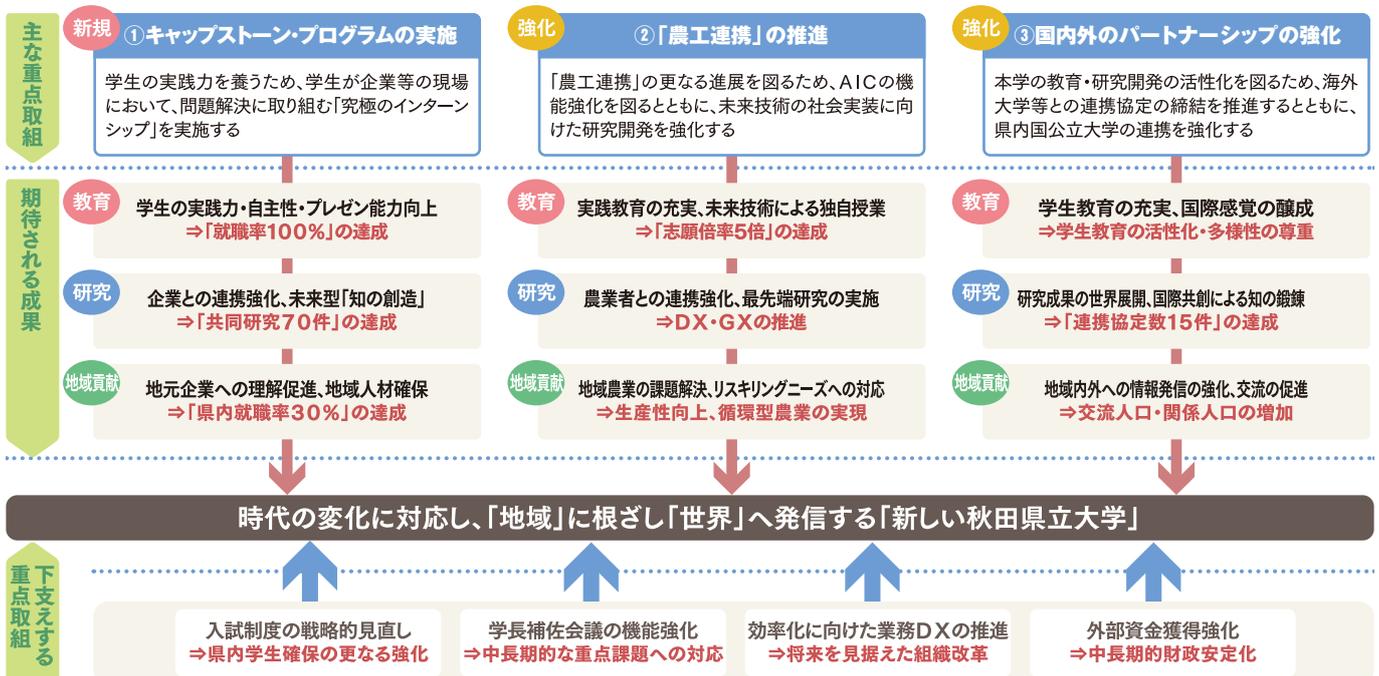
## 中期目標・中期計画[第4期:令和6年度から6年間]

### 中期目標の基本方針 (県策定)

- 幅広い教養を備え、多様な個性や能力を活かし、地域社会の発展や課題解決に貢献できる人材を育成する
- 本県の地域特性や課題を踏まえた研究を重点的に推進し、県内産業の振興や将来の産業界・地域社会を支える

### 中期計画の基本方針 (大学策定)

- 中期目標における県からの要請に応えるため、未来社会創造の先導に立ち「**新たな知**」を創造し世界へと展開する
  - 本中期計画期間を「**改革の期間**」と位置づけ、少子化の進展など時代の変化を見据えた**新たな取組**を推進する
- ※プレゼンスの向上に向けて行う重点的な取組は下記のとおり

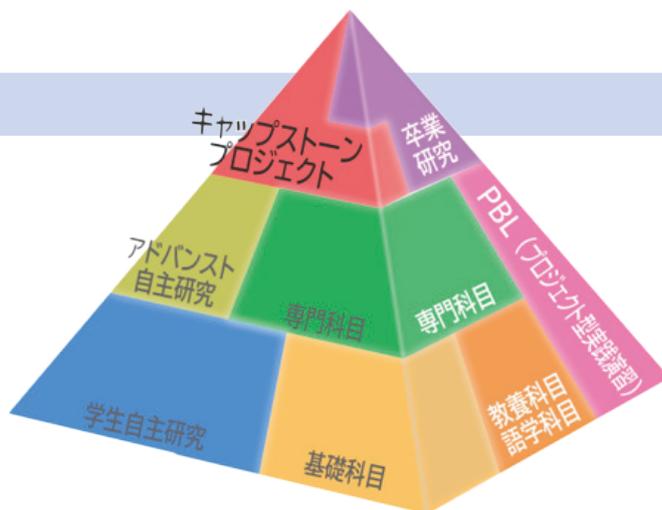


# 本学の特長

## 学生と社会が共に未来を創る

### キャップストーンプロジェクト

システム科学技術学部では、令和6年度より3年生を対象に実践型の演習科目として「キャップストーンプロジェクト」を開講しています。学生が企業や自治体、関係団体のみなさまと一緒にその企業や地域社会の問題発見や課題解決に取り組みます。専門教育の総仕上げの一つに位置づけられ、実社会により近い課題に取り組み高い実践力を育むとともに学生が企業や技術者と接する機会を提供することもねらいとしています。



## 大学に入ったらすぐに研究をしたい

### 学生自主研究

学生自主研究は新生と2年生が行うことができる制度です。学生は研究テーマを決定し、グループを組織し、計画を立てて実施することになります。また、指導教員が必要なアドバイスをを行い、実験スペースや機材、そして研究資金(1件あたり15万円を限度)を交付して、学生の研究をバックアップします。

● 令和6年度研究テーマ数

システム科学技術学部で32件 生物資源科学部で29件

## 高い就職率を維持する就職支援体制

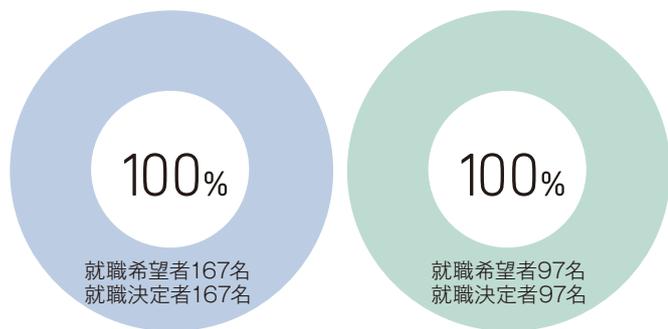
### 就職に強い大学

令和7年3月で23期目の卒業生を送りだしました。第23期生の就職希望者264名のうち令和7年3月31日現在の就職内定率は100%です。これまでの卒業生はほぼ100%の就職率を達成しております。

また、大学院への進学者は第23期生では90名となっています。

#### 令和6年度卒業生の就職状況 (令和7年3月31日現在)

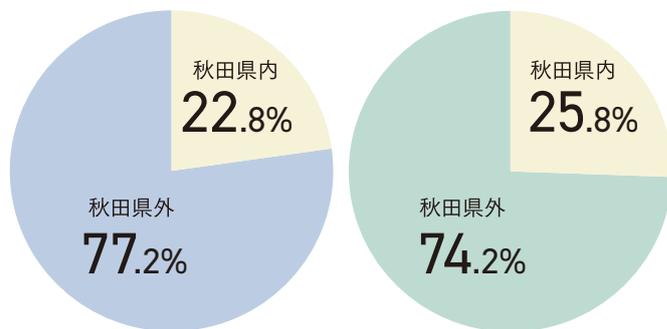
##### 就職率



システム科学技術学部

生物資源科学部

##### 就職先



システム科学技術学部

生物資源科学部

## 細やかな指導とバランスのとれた教育

### 少人数教育

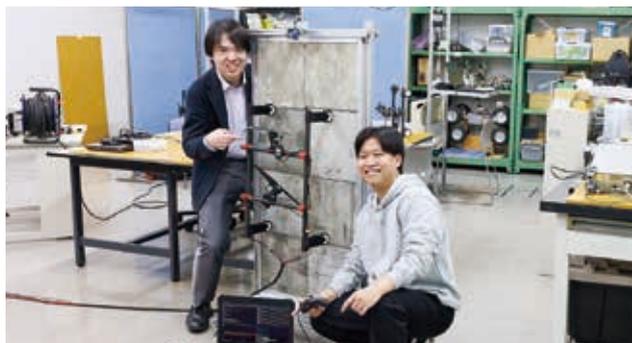
教員一人あたり学生数が約9名、細やかな指導ができます。教養科目から専門科目まで総勢184名の教員が、入学から卒業までをサポートします。教員には大学で教育・研究実績がある人材に加え、民間企業で研究者・技術者として経験を持つ人材も約3割を占め、バランスのとれた科学技術教育を行っています。

## 「システム思考」による幅広い視野を持ち、 独創性に富むエンジニアを育てる。

- 〈5学科〉入学定員240名
- 学部長:西田 哲也
- 副学部長:堂坂 浩二

## 知能メカトロニクス学科

- 入学定員/60名 ●学科長:能勢 敏明



例えば身近な自動車を取り上げても、もはや純粋な機械システムではなくエレクトロニクス、信号・情報処理、制御等の技術が融合した高度な知能化システムになっています。今後益々、広い技術分野をある程度理解して複雑なシステム全体を俯瞰できる技術者が重要となります。本学科では、エレクトロニクス基礎に始まり、電気工学基礎、そして機械工学基礎を学びます。さらに、これらの基礎知識とプログラミング技術を融合して、実際に動作するロボットシステムの実習を行います。学部では広い既存技術の理解が中心となりますが、これまでに無い新しい技術の開発に魅力を感じる学生は大学院へと進学し各研究室の特定分野における先端研究を通して、より実践的な学修を進める事になります。その際の選択肢の広さが本学科の特徴です。

## 建築環境システム学科

- 入学定員/40名 ●学科長:菅野 秀人



「建築学」は、多方面の知識・経験・感性などを総動員して「あらゆる分野を統合する工学芸術」である点が際立った特長となっています。ひとつの住宅設計でも、統合すべき対象は、地域・都市としての空間・環境、あるいは地球環境のスケールまで及ぶ場合もあります。優れた建築空間を実現するためには、建築をシステムとして捉え、幅広い視点で総合的に学び、研究しなければなりません。本学科では、木質構造など、地域特性に富んだカリキュラムや、即戦力が求められる社会のニーズに応えるための3次元 CAD・BIM 教育などに加え、新しい時代に対応した総合的な建築教育と研究開発に取り組んでいます。

## 機械工学科

- 入学定員/60名 ●学科長:鶴田 俊



生産技術関連分野において、シミュレーション技術や IT、AI との融合技術をはじめ、サイバー空間を活用する生産技術のデジタルトランスフォーメーションが進化しています。機械工学の基礎をなす材料力学、熱力学、流体力学、機械力学を重視し、ものづくりに必要な知識と技術を修得する授業を行います。プロジェクト型授業を導入し、デジタルレポリューションによる物理的な生産の在り方、価値創造などの上流から下流までの生産プロセスの在り方などに関するセンス・実践力をエネルギーシステム、輸送機械、生産システムを対象に養います。システム思考により専門分野を有機的に結合し、地域社会基盤を支える実践的技術者育成を行います。

## 情報工学科

- 入学定員/40名 ●学科長:西口 正之



情報工学科では、コンピュータのソフトウェアの開発手法や、インターネット活用の為の技術はもとより、それらを利用することでどのような価値を世の中に提供できるのか、という事をテーマに日々研究を行っています。皆様の身の回りにある様々なデータ、例えば音声や画像のデータを、テキストデータなどとともに、どのように高付加価値化することが出来るのか、安全で面白いアプリケーションやサービスはどうすれば出来るのか、ということ等を常に考えています。一見無価値に見えるデータも、それらを蓄積して適切に処理してあげると、意味のある情報になります。見えないものを見たり、聞こえない音を聞いたりすることも可能になります。私達は、いままで経験したことがない、新たなユーザー体験を創出することを目指して日々研究を進めています。

## 経営システム工学科

- 入学定員/40名 ●学科長:木村 寛



社会の持続的発展につながるイノベーションには、個人や企業と、それを取り巻く自然環境および社会経済環境との間の相互作用についての理解、すなわち鳥瞰的視野からの外部環境の理解が必要不可欠です。本学科は、このような理解の上に立ち、数理的な手法を用いた経営工学を基礎とするイノベーションを目指し、それを実行できる人材の養成を目的とした教育を行います。このような人材は、モノやサービスすなわち有形無形の価値を創造するさまざまな集団における意思決定とその実行において、中心的な役割を担うことが期待されます。

## 最新テクノロジーで追求する、 人と生物資源との「共生」の新たな可能性。

- 〈4学科〉入学定員150名
- 学部長:長濱 健一郎
- 副学部長:小林 正之

### 応用生物科学科

- 入学定員／40名 ●学科長:穂坂 正博



本学科では動物・微生物・植物と幅広い生物の生命現象の解明と、秋田県に特有な素材の有効利用に関する研究によって得られた成果を、産業や医療に役立てることを目指しています。本学科における教育の目標は、ライフサイエンス・食品・醸造産業における研究者や技術者を育成することです。動物・微生物・植物の遺伝子や遺伝子操作技術、清酒造りや食品開発に興味がある、研究者や技術者になりたいとあこがれる皆さん、応用生物科学科で私たちと一緒に学びませんか。

### 生物環境科学科

- 入学定員／30名 ●学科長:木口 倫



本学科では、私たちの生活に身近な地域から地球規模まで広がる自然環境や生物資源に関わる問題をフィールドに密着しながら発見し、人間生活への生物資源の活用と保全、自然環境の修復と再生などに関する教育・研究を行っています。生物学・化学・環境科学などの基礎を学んだ学生は、4つの研究グループのいずれかに進み、秋田県内外の様々な自然環境や農山村地域を題材としながら、異なる専門分野の研究者や地域の人々と手を携えて、人間と生物資源をとりまく環境問題の解決や環境と調和した生物資源の効果的利用に貢献します。

### 生物生産科学科

- 入学定員／40名 ●学科長:藤 晋一



これからの農業には地球温暖化や国際情勢の変化に迅速に対応し、消費者からみて魅力のある食料を安定生産することが求められてきます。これらの課題を解決するためには、これまでにはない新品種の育成や健康に配慮した高付加価値な作物の生産、環境に配慮した安全・安心な食料生産技術などが必要となります。一方、植物は生薬や化粧品原料としても古くから利用されており、無限の力を秘めています。本学科では、植物のもつ能力を科学的に探求し、理解を深化させることで、新しい知見を世界に発信すると同時に、バイオテクノロジーをはじめとした最先端の技術を活用して、植物の能力を引き出し、新たな技術の開発や新品種を開発を進めることで、これからの農業をおもしろくできる人材を育成します。

### アグリビジネス学科

- 入学定員／40名 ●学科長:吉田 康徳



「アグリビジネス」とは、農業生産を基幹とし、生産物の流通と消費までを含む、農業・農村・食に関わる新しい社会的・経済的活動を意味します。本学科では、そのような「アグリビジネス」において、時代のニーズに答える知の創造と技術の開発を行っています。本学科で学び養われる力は、①分野横断的知見（農業の生産技術や経済を学び地域現場を総合的に捉える知見）、②ビジネス思考（収益性や持続性の向上を目指して思考する能力）、および③現場応答力（地域現場の課題を見出し、その課題解決策を提案する力）です。皆さん、一緒に学び・研究し、持続可能な新しい農業・農村・食を創成していきましょう！

# アグリイノベーション教育研究センター

●センター長:西村 洋

## スマート農業の研究拠点 全国一の広さを誇る大規模農場

第3期中期計画に掲げた「次世代農工連携拠点センター(仮称)構想」の検討に基づき、令和3年4月1日、大潟キャンパスに『アグリイノベーション教育研究センター』を設置しました。同センターは、生物資源科学部の附属施設である「フィールド教育研究センター」を改編し、全学的な組織として新たにスタートしました。

秋田県農業が労働力不足・後継者不足などの深刻な課題を抱える中、「スマート農業」の普及を切り口に、農業振興、さらには製造業・情報通信業など関連産業の振興を図りながら、秋田県立大学が持つ農学系・理工学系の知見を総動員して教育・研究を行う拠点として、秋田県の持続的発展に貢献していきます。

総面積190ha、東京ドームの建築面積の約40個分。そのうち圃場面積が164haあり、大学附属農場の中で全国一の広さです。水稲に加え、大豆や小麦などの畑作物、果樹や野菜、花きなどの園芸作物、牧草やトウモロコシなどの飼料作物が栽培されるとともに、肉用牛も飼養されています。センターには、ローカル5G、キャリア5G及び主要施設への無線LANアクセスポイント等の高速通信網も備えており、農業生産の大規模フィールドで、演習や実習、卒業研究、地域に最適化されたスマート農業モデルの開発・実証などが行われます。

### 教育

学部生・大学院生を対象とした講義・実験・実習等・社会人教育「スマート農業指導士育成プログラム」

### 研究

学内研究・共同研究・受託研究等の実施及び支援  
新たに設置するコンソーシアムを通じた共同研究等の推進・技術等の普及促進

#### 【研究事例】

- 秋田版スマート農業モデルの創出に向けた研究  
(デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプSociety5.0型)、秋田版スマート農業モデル創出事業費補助金)
- 秋田県における田畑輪換推進のための技術研究
- 湛水および乾田直播栽培の実証研究
- キイチゴ属植物の園芸利用と産地化に向けた研究
- 放牧短角牛の管理技術と肉質改善に関する研究 など

### 技術展示・地域貢献

県内高校生を対象とした体験学習会・出前講座等、一般県民・児童など学校関係者等の見学受け入れ、センター開放デーの開催

### 施設・機器概要

- センター研究・管理棟 ●センター管理棟 ●大区画農場 ●研究用小区画水田
- コンピュータ制御園芸温室 ●環境制御型パイプハウス ●人工気象室 ●牛舎
- 作業舎 ●機械格納庫 ●整備舎 ●穀物乾燥調整設備 ●保冷库
- 圃場164ha(水田25ha、畑45ha、果樹園6ha、牧草地ほか88ha)
- スマート農機(ロボットトラクター・田植機、自動運転コンバイン、農業用ドローン)
- トラクタ、ローダー等の大型機械(20台) ●その他農業機械(約70台)

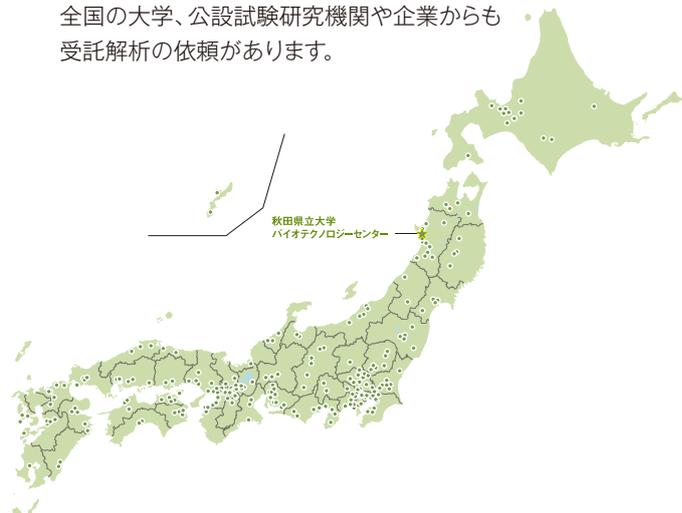


## 生命科学や農林水産業の発展に 貢献する研究・教育活動拠点

バイオテクノロジーセンターでは、現代の生命科学研究に不可欠である分析技術のうち、DNA塩基配列の解析、DNA多型解析などだけでなく、植物病害の分子診断、遺伝子組換え植物の作製といった受託解析・サービスを、学内はもとより、県内外大学・公設試験研究機関・企業からのユーザーに広く開放しています。当センターではこれまでに10年以上の受託実績を有し、現在では本学生物資源科学部の教育・研究活動にとって不可欠な存在として位置づけられています。運営には専門分野の異なる教員が複数関与し、熟練した専任スタッフが独自に開発し標準化したマニュアルに従って、ユーザーの多様なニーズに応えています。これらの活動を通じて、学内の研究の高度化や実践教育に貢献するとともに、社会貢献にも努めてまいります。

### バイオテクノロジーセンター利用者の分布

秋田県内だけでなく、  
全国の大学、公設試験研究機関や企業からも  
受託解析の依頼があります。

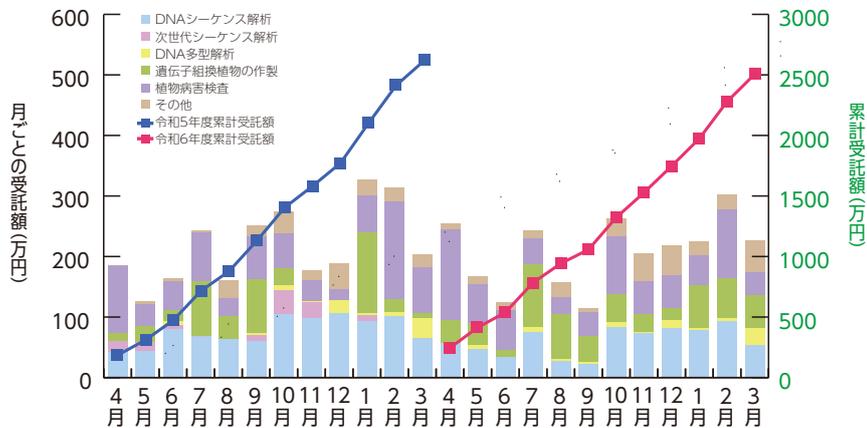


### バイオテクノロジーセンターの 研究支援サービス

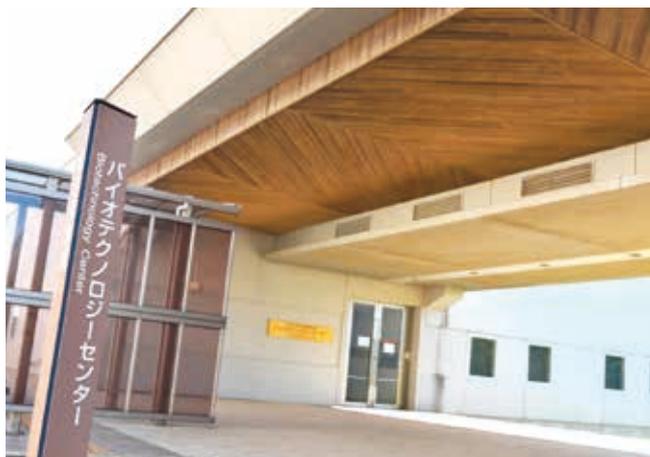
- 1 DNAシーケンス解析
- 2 DNA多型解析
- 3 植物病害の分子診断
- 4 食品に関わる微生物(酵母や麹菌など)の同定
- 5 遺伝子組換え植物の作製

※本サービスは、本学との受託契約に基づいて実施いたします。

### 受託額の推移



次世代シーケンス解析は令和5年度をもって受託停止いたしました



## グローバルで、広角的な 基礎学力を身に付ける

### 教育 目標

目標1  
豊かな感性と鋭敏な分析能力を育成

目標2  
実用に耐える英語能力と情報処理技術

### 人文・社会等

創造的な「ものづくり」のための先端技術の開発も、最終的には人々の幸福な生活を目標にします。分野は様々に異なろうと、テクノロジーの進歩に貢献する未来の科学者・専門技術者である学生は、将来のキャリア形成に向けての専門研究とあわせて、今から人と社会への関心を幅広く涵養し維持する必要があります。秋田県立大学では、専任教員の授業だけでなく、放送大学の授業も利用しながら、グローバルな視点の育成、人や社会生活についての複眼的・広角的な思考力の養成を図ります。

### 英語

本学では実用的な英語を重視し、社会人として、また研究者・技術者として、実社会で使える英語の習得を支援する教育を行っています。入学直後からCALLでリスニングに慣れ、その後、学生それぞれのニーズに応じて、話す・読む・書くための科目やTOEIC・英検等の受験に対応する科目も開講します。また、新入生を対象に客観的英語力測定のためにTOEIC Bridge試験を年2回実施し、2年生以上を対象にTOEIC IP試験を実施します。

### 保健体育・情報科学・数学、教職課程

保健体育科目では生涯にわたる健康教育、スポーツ実践の基礎的理論及び技能の養成を図り、コンピュータリテラシーでは日々進展し続ける情報化に対応していける力を養成します。また専門科目を学ぶ上で欠かせない専門基礎(共通基礎)科目のうち、数学教育を学部教員と協力して行います。さらに教職免許状取得を希望する学生のために、教育職員免許法及び同法施行規則の定める所定の単位を修得できる教育課程を編成しています。



## 附置研究所 木材高度加工研究所

● 所長: 高田 克彦

### 木材資源の理想的な循環系の確立で、 人類の未来に貢献

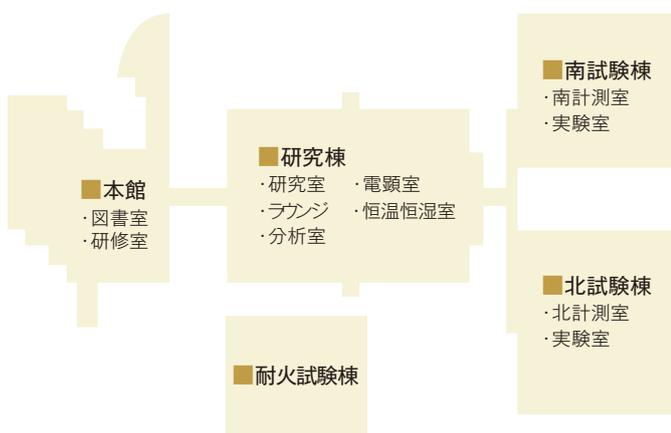
#### 木材資源の理想的な循環系の確立を目指して

木材高度加工研究所は、秋田県の木材産業を資源依存型から技術立地型に転換することを目的として、平成7年に誕生しました。平成11年に秋田県立大学の附置研究所となり、木質資源の理想的な循環系の確立を目指して、木材の基礎物性・加工・利用に関する研究と技術開発を行うとともに、高い技術力を備えた人材の育成（大学院博士前期課程・博士後期課程）にも取り組んでいます。

本研究所では、専任教員が複数層にグループを構成して創造的なプロジェクト研究を展開しており、効率的に研究が推進できる体制をとっています。このことは、学生の教育・支援においても活かされ、研究能力ばかりではなく幅広い見識を育てることに役立っています。また、本研究所の研究成果を民間に技術移転する、あるいは各種の情報を研究所が円滑に得るために、公益財団法人秋田県木材加工推進機構が研究所内に併存しています。

#### 主な研究テーマ

- 森林の多面的機能の発揮に向けた森林資源の管理システムの開発
- 地域活性に向けた林産物の多目的流通・利用システムの開発
- 需要拡大に係る高度技術の開発
- 新規需要創出に向けた新たな木質材料・構造・工法の開発



## より深く濃密な研究を重ね、高度な専門技術を学ぶ

### 高度専門職業人の養成を重視

高等教育機関として教育面・人材養成面で地域社会からの期待が大きい高度専門職業人の養成を重視するとともに、後期課程については、より高度で専門的な業務に従事できる高度技術研究者の養成に重点を置いた教育研究指導を進めます。

### 社会人再教育の重視

全国的な学部卒業者や社会人の大学院入学希望者の増加、さらには産学官連携による科学技術基盤の形成が課題となっている秋田県における潜在的なニーズに積極的に対応しています。

### 少人数教育

論文指導、実験指導における少人数教育体制が確立しており、教員と「Face to Face」で研究を進めることができます。



## システム科学技術研究科

● 研究科長：西田 哲也 ● 副研究科長：堂坂 浩二

博士前期課程	総合システム工学専攻	入学定員 42名
	共同サステナブル工学専攻	入学定員 8名
博士後期課程	総合システム科学専攻	入学定員 8名

システム科学技術研究科は、高度な教育研究を行うため、学部で構成する5学科に対応する総合システム工学専攻および秋田大学と共同で設置する共同サステナブル工学専攻からなる博士前期課程と、それらを包括的に発展させた総合システム科学専攻の博士後期課程を設けています。システム思考を身につけ、創造力と総合力に秀でた次世代を担う高度エンジニアの育成を目標に掲げ、充実した研究設備を整えるとともに、国内外の学会などでの発表も積極的に支援します。

また、開かれた大学として地域の研究機関・企業などと連携を密にしていることも特色で、本荘由利産学振興財団による学生の研究活動や海外派遣への支援もあります。



## 生物資源科学研究科

● 研究科長：長濱 健一郎 ● 副研究科長：高田 克彦、小林 正之

博士前期課程	生物資源科学専攻	入学定員 28名
博士後期課程	生物資源科学専攻	入学定員 5名

物質文明の成果の下、私たちは豊かな生活を享受しているかに見えますが、食料、エネルギー、環境の面で重大な問題を抱え込んでいます。これらの問題解決なしには人類の未来はありません。解決の鍵は再生可能な生物資源と人類の共存関係の樹立にあると考えます。その原理を解明し、ふさわしい技術を確立することが私たちの課題です。

本研究科では、今までの農業システムを再吟味し、新しい生物機能の発見と応用を通じて、これらの課題に取り組む専門的技術者を育成します。



## 地域の人々とのパイプ役を目指して

### 科学技術の振興と地域社会の発展に貢献

地域連携・研究推進センターは、大学と地域の方々との連携推進や研究活動の支援のために設置された組織です。大学には様々な知的資源があり、これを社会へ還元するのが地域連携・研究推進センターの役割です。

そのため、専任の教員やコーディネーターを配置し、大学の研究者と企業等をつなぐ業務を行っています。また、産学官連携イベントやホームページなどを通じて、大学の研究シーズを積極的に企業等に提供することで、産業振興に貢献することを目指します。

### 主な業務

#### 産学官連携の推進

- 企業等からの技術相談への対応や受託研究、共同研究の窓口業務を行っています。
- 大学の研究者の情報を広く提供し、企業等との連携推進を図っています。
- 産学官連携イベントなどでの出張窓口を設置しています。

#### 研究活動の支援

- 教員の研究活動を支援するため、地域課題等をテーマとする研究への研究費配分や外部資金制度に関する情報提供及び受け入れを行っています。
- 研究を通じて開発される知的財産権の保護・活用を推進しています。

#### 地域交流の促進

- 研究成果発表会や産学官交流イベントを開催しています。
- 研究者の研究シーズの発信や地域等からの要請に応じた講師の派遣を行っています。

## 最先端の研究を秋田から

### 秋田県立大学が取り組む注目の研究課題

#### 小型軽量電動化システムの研究開発による産業創生

##### 事業の概要

航空機システム電動化を中心とした先端的な研究・開発による参画企業のレベルアップ、国内外の教育機関等と連携した専門人材の育成により、大学の魅力向上（大学改革）と県内産業の創生による若者の県内定着を実現することを目的としています。

#### 秋田版スマート農業モデル創出事業

##### 事業の概要

秋田県農業が労働力不足・後継者不足などの深刻な課題を抱える中、「スマート農業」の普及を切り口に、農業振興、さらには製造業・情報通信業など関連産業の振興を図りながら、秋田県立大学が持つ農学系・理工学系の知見を総動員して教育・研究を行う拠点として、秋田県の持続的発展に貢献していきます。

### こんな時にお役に立ちたい

- 新商品開発や、生産技術の改善、省力化を実施したい。
  - 大学に研究を依頼したい。
  - 大学と共同で研究を実施したい。
  - 近年の技術動向や環境対策等について話を聞きたい。
  - 企業の技術研修を行いたい…など
- ※専門外のことも必要に応じて、連携する他の機関にご紹介し、その解決をサポートします。

### 提供できるサービス内容

- 相談案件に対するアドバイスをお引き受けします。
  - 機器材を用いた技術指導、企業への技術指導、会社や工場へ出向いての指導・助言も行います。
  - 商品開発や技術改善等のための受託・共同研究の実施をお引き受けします。
  - ご要望に応じ講師を派遣します。
- ※一般的なアドバイスに要する相談費用は無料です。  
ただし、指導などに伴う消耗品や旅費などを負担していただく場合もあります。

### お問い合わせ

#### 秋田キャンパス

TEL.018-872-1557 FAX.018-872-1673

#### 本荘キャンパス

TEL.0184-27-2947 FAX.0184-27-2194

### 森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点

#### 事業の概要

人口減などで地域社会が縮小する中で、秋田県の「森林資源」を多角的に活用することで、資源や技術を受け継ぎ、人材と文化の交流を促して経済・産業を活性化させ、新しい循環システムの構築を目指すプロジェクトです。秋田の豊かな森林資源の活用を事業の柱に据え、さらに人材育成や産業創出の推進に努めます。





# 地域貢献 地域貢献活動

令和6年度実績

## 地域貢献活動について紹介します。

### 1. 産学官連携

地域企業に対する技術指導、技術移転及び共同研究等の実施

#### (1) 技術相談等

令和6年度実績 137件

- 石川県能登地震の復興支援について
- 青果物流のDXについて
- うまみ成分の分析について
- AIを活用したデータ分析について
- 抵抗器と音質の違いを数値化したデータで比較評価
- カメシ防除に対する知見について
- 小型精密ネジ金型の寿命アップに向けた表面処理について
- バイオ炭を用いた雑草抑制試験について
- 木材乾燥について
- ササの駆除方法について
- クマ被害対策について

#### (2) 研究成果発表会

令和6年度実績 13件

- アグリビジネス創出フェア2024 5件出展
- 大学見本市～イノベーションジャパン出展～ 1件出展
- 未来へのステップあきたイノベーションフォーラム 7件出展

#### (3) 共同研究・受託研究

令和6年度実績 153件

- 田畑輪換圃場への有機物施用が圃場養分収支および土壌肥沃度に及ぼす影響の解明
- 水田の中干し延長によるメタン放出削減の定量的評価
- 未利用食材が牛のメタン生成およびルーメン性状に与える影響
- にかほ市におけるトキと共生する里地づくり耐性研究方法～水田機能を活かした生物多様性による持続可能な循環型農業・地域づくりの推進～
- 農業水利施設の自然災害に対する防災管理の研究
- カーボンニュートラル(CN)対応を考慮したファイトレメディエーション技術の開発
- 八郎湖における生態系環境基礎調査
- 休廃止鉱山廃水処理に資する微生物資源の適用可能性の検討
- タマネギの安定・多収生産のための実証研究
- 積殻等地域資源の有効活用に向けた実証研究
- 能代山本地域における風力発電施設由来熱の農業利用研究
- まめり試験に関するタイズ黒根腐病菌等の菌密度測定および新規微生物資材候補となる菌の選抜
- 次亜塩素酸水溶液種と植物病害防除の関係確認および農業分野への応用検討
- 鉄欠乏状態の樹木ポプラへのキレート鉄肥料(PDMA)施用による回復評価試験
- 弱酸性次亜塩素酸の農業登録に向けた研究・活性パーミの肥料登録に向けた研究
- 鉄分と亜鉛を多く含むイネ品種の開発
- 中干し延長による水田由来のメタンガス排出量削減モニタリング技術の確立
- 八郎湖における魚類等の脂肪酸組成の変遷と八郎湖環境の健全性評価に関する研究
- 水稲細菌制御技術及びたまねぎの病虫害防除体系の確立
- ウシ多能性幹細胞およびウシ線維芽細胞などの樹立・培養・増殖・分化・性質改変などに関する研究
- 水稲有機栽培における雑草制御技術開発および種多様性評価
- 大規模農家経営実態調査
- 園芸福祉を地域に根づかせ、持続的活動とするための実践型研究
- スクーアアESの水田圃場におけるイネ苗腐病(ピシウム属菌)に対する防除効果
- ウシの妊孕性向上システムの実用化事業
- 水質モニタリング(大湯村地区農業用排水路等)
- 廃棄物削減に向けた統合的廃棄物管理に関する研究
- 使用済紙おむつ、家畜糞尿等の堆肥化及び培養土化
- 水稲への腐植物質施用による環境ストレス耐性効果の検証
- 新規澱粉形質米の育種および用途開発に関する研究
- 湖底耕うんによる底質改善対策検討基礎調査
- オーミックコンタクト抵抗測定方法の研究
- 地域環境に調和した新たな雪国対応の木造カーポートの開発
- 構造解析に基づくボーリング用機種の最適形状の検討と安全性の向上
- 次世代航空機用電動燃料ポンプ性能評価試験技術の獲得
- 立体音響再生技術の実用化に関する研究
- D窓改修による室内温熱環境改善効果に関する検討
- じゅんざい可食部摘み取りロボットの共同開発
- カラマツ木粉と樹脂の混練りによる3Dプリンタ用フィラメントの作製可否及び、フィラメントの安定成形
- 深度カメラからの情報による機械学習に基づく木口品質および径の評価方法
- フェムト秒レーザーでの基板加工時の加工状態確認
- 水平スリットのみを配置する鉄筋コンクリート造壁付き柱構造の性状把握に関する共同研究
- 大スバントラス屋根架橋の施工方法の検証と長期荷重における変形挙動の実証
- 超急冷法による鉄系軟磁性体の高周波軟磁気特性向上に関する研究
- アークによるスクラップ伝熱・溶解機構
- 断熱材・空気層を利用した温熱環境の検証
- 秋田県版「持続可能な地域社会の設計」のための情報基盤の構築
- 次世代高速通信(6G)へ向けた新しい機能材料の開発
- 耐火木造用樹脂型柱梁仕口部の開発
- 木質ハイブリッド耐火外壁の開発
- ミリ波レーダを利用した非接触式での生体情報検出方法
- 習慣的なラート実施による身体機能向上効果の解明
- 能代市におけるラズベリーの安定的な生産・出荷の増大および市場拡大に関する経営実証研究
- 樺細工の形状安定性試験
- 国産材の化学処理に向けた含水率管理技術に関する研究
- 未利用植物資源を用いたインテリア部材に関する研究
- 国産ナラ材を用いたウイスキー樽の品質改善に関する研究
- 丸太打設による軟弱粘性土地盤対策の地盤支持力実証実験
- マイタケ栽培に用いられる菌床用ナラ材に由来する生育阻害成分の検索
- 建築用木材の高耐久化と森林資源の価値向上に関する研究
- 邦楽器用材の曲げ加工技術の開発

### 2. 公開講座等

#### 公開講演会

- 「いつでも青春キャンパス」シニア大学生中間報告&おばあちゃんお笑いトークショー …… 延べ参加人数800名

#### 公開講座

- 秋田県立大学公開講座  
「音と昆虫：聴覚の不思議と新たな食文化を探る」 …… 延べ参加人数121名
- 木材高度加工研究所  
木材基礎講座 …… 延べ参加人数 83名  
木材応用講座 …… 延べ参加人数 7名  
木材高度加工研究所公開講演会 …… 延べ参加人数 70名

### 3. 連携協力協定機関

協定締結先	締結日
株式会社秋田銀行との連携協力協定	平成18年 12月27日
株式会社北都銀行との連携協力協定	平成19年 3月29日
中小企業金融公庫秋田支店との産学連携協力協定	平成19年 7月 6日
国民生活金融公庫秋田支店との産学連携協力協定	平成19年 9月 7日
TDK株式会社との連携協力協定	平成19年 10月15日
株式会社わらび座との連携協力協定	平成19年 11月 6日
国立大学法人東京農工大との連携協力協定	平成20年 7月18日
国立大学法人秋田大学との連携協力協定	平成20年 7月22日
戦略的大学支援事業「プロジェクト4A」協定	平成20年 9月17日
戦略的大学支援事業「スーパー連携大学院構想」協定	平成20年 9月26日
潟上市との連携協力協定	平成20年 10月23日
秋田県立図書館との相互協力に関する協定	平成20年 12月16日
利本荘市との連携協力協定	平成21年 2月24日
にかほ市との連携協力協定	平成21年 2月24日
大湯村との連携協力協定	平成21年 3月 4日
秋田大学・国際教養大学との連携協力協定	平成21年 3月24日
大湯土地改良区との連携協力協定	平成21年 9月10日
秋田県能代地区土地改良区との連携協力協定	平成21年 10月28日
秋田市との連携協力協定	平成22年 1月 7日
小坂町との連携協力協定	平成22年 2月26日
秋田県立博物館との連携協力協定	平成22年 3月25日
秋田大学との共同大学院設置に関する協定	平成22年 12月 3日
横手市との連携協力協定	平成23年 3月15日
三種町との連携協力協定	平成23年 3月24日
首都大学東京システムデザイン学部との部局間協定	平成23年 3月28日
県立湯沢翔北高等学校との連携協力協定	平成23年 11月21日
美郷町との連携協力協定(木材高度加工研究所)	平成24年 2月16日
岩手県大槌町との震災復旧及び復興に向けた連携協力協定(木材高度加工研究所)	平成24年 5月10日
東北森林管理局との連携協力協定	平成24年 9月28日
男鹿市との連携協力協定	平成24年 10月26日
秋田県教育委員会との連携協力協定	平成25年 7月17日
秋田県立秋田中央高等学校との連携協力協定	平成25年 9月10日
新潟大学農学部、山形大学農学部との部局間協定	平成25年 9月27日
能代市・米代西部森林管理署・風の松原の再生と共に歩む会との連携協力協定(木材高度加工研究所)	平成26年 9月 4日
株式会社ユースエナジー秋田港との連携協力協定	平成27年 5月19日
大館市・米代東部森林管理署・大館曲げわっぱ協同組合との連携協力協定	平成27年 9月 9日
秋田県農業法人協会との連携協力協定	平成29年 9月 1日
秋田県立横手高等学校との連携協力協定	平成30年 9月10日
株式会社アルビオンとの連携協力協定	平成31年 3月14日
上越教育大学との連携協力協定	平成31年 4月 1日
日本風力開発株式会社、日本オフショアウインドサービス株式会社、秋田オフショアウインドサービス株式会社との連携協力協定	令和 2年 3月13日
株式会社秋田ケーブルテレビとの連携協力協定	令和 2年 5月 1日
秋田県水産振興センター、日本風力開発株式会社との連携協力協定	令和 2年 7月16日
秋田県立金足農業高等学校との連携協力協定	令和 3年 2月17日
リコージャパン株式会社との連携協力協定	令和 3年 3月15日
KDDI株式会社との地域活性化に関する協定書	令和 3年 3月22日
秋田大学との共同大学院の設置に関する協定	令和 3年 6月22日
東日本電信電話株式会社秋田支店との地域活性化に関する協定	令和 3年 11月29日
大仙市との連携協力協定	令和 4年 3月17日
株式会社ゆう幸及び秋田県内のラズベリー生産者との連携事業及び登録圃場制度にかかる協定	令和 4年 10月18日
仙北市の連携協力協定	令和 5年 3月27日

# 地域貢献 国際学術交流

国際学術交流は、本学の教育・研究の成果を積極的に情報発信し、国際的認知を高める観点から重要です。また、学生に対する国際的活動・交流の場の提供、研究内容の充実という観点から、異なる文化、異なる習慣と交流することは有意義なことです。さらに、世界の研究機関との先進的な科学技術や人的交流を促進することにより、本学の教育・研究の水準を高め、次代の人材育成ひいては、地域の産業振興や持続的発展にも大きく寄与していく活動であると期待されます。人類と地域の持続的発展に関する幅広い知的財産やそのシーズを有する本学は、その教育や研究の体制を一層充実させるために、国際共同研究、研究者の相互派遣、留学生の受け入れや派遣などにより、国際学術交流を積極的に推進していきます。

## 短期海外渡航研修

本学では、教員が立案し海外での学生交流を主目的とする国際交流プログラムと、夏期・春休休業期間を利用して学生を海外へ派遣する語学能力の向上と異文化体験を目的とした研修プログラムを実施しています。令和6年度は、国際交流プログラムとして、順天大学校(韓国)、カセサート大学(タイ)、国立宜蘭大学(台湾)、アルバータ大学(カナダ)、モンゴル科学技術大学エルデネット校(モンゴル)、海外渡航研修プログラムとして、ビクトリア大学(カナダ)、エトヴェシュ・ロラーンド大学(ハンガリー)、シンガポール国内の大学及び現地日系企業に、延べ41名の学生が参加しました。

### 大学間協定

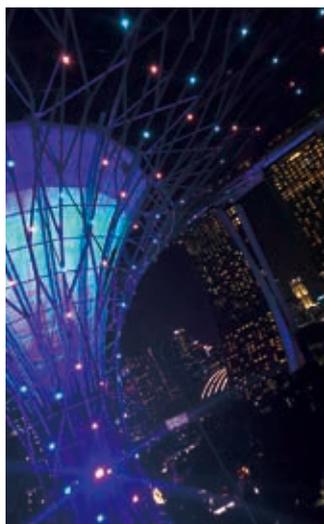
国・地域名	大学名	協定・覚書の締結・更新日
台湾	国立宜蘭大学	平成20年 2月 29日
中国	上海理工大學	平成23年 1月 12日
韓国	順天大学校	平成24年 2月 21日
中国	西南交通大学	平成25年 11月 5日
中国	蘭州大学	平成29年 3月 17日
タイ	カセサート大学	令和元年 5月 22日
モンゴル	モンゴル科学技術大学エルデネット校	令和5年 4月 3日
ベトナム	カントー大学	令和6年 7月 30日
ペルー	ペルー国立工科大学	令和6年 9月 2日
中国	北京林業大学	令和7年 2月 28日
ボツワナ	ボツワナ農業天然資源大学	令和7年 6月 3日

## 国際学術交流協定

本学では特定の大学などとの間で平等互恵の精神に基づいて、国際学術交流を推進し、本学の教育・研究の水準を高め、さらには地域貢献を強化するため、大学間・部局間で国際学術交流協定を締結しています。令和7年4月現在、10の国・地域で、14の大学・学部などと大学間・部局間協定を締結しています。

### 部局間協定

部局名	国・地域名	大学・学部等名	協定・覚書の締結・更新日
システム科学技術学部	インド	ビヤニ大学	平成24年 9月 13日
	中国	山東建築大学	令和2年 3月 10日
生物資源科学部	台湾	国立中山大学 理学部	令和5年 12月 20日
	カンボジア	カンボジア王立農業大学	令和7年 3月 25日
総合センター	ハンガリー	エトヴェシュ・ロラーンド大学	令和6年 12月 18日





学部在籍者の状況 ※括弧内は留学生を表す

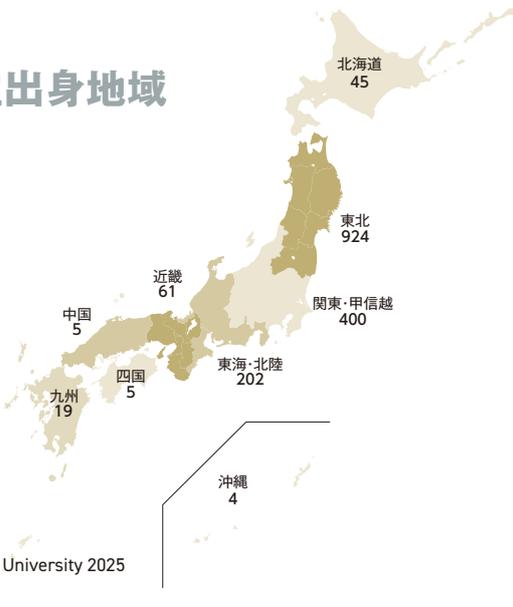
学部・学科名	定員 (入学定員)		1年			2年			3年			4年			合計		
	計	(留学生)	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
システム科学技術学部	960	(240)	245	217	28	282	246	36	234	198	36	230	199	31	991	860	131
機械工学科	240	(60)	61	59(1)	2	78	73	5	52	48	4	61	59	2	252	239	13
知能メカトロニクス学科	240	(60)	64	55	9	70	64	6	53	51	2	55	52	3	242	222	20
情報工学科	160	(40)	37	35	2	44	38	6	42	38	4	42	37	5	165	148	17
建築環境システム学科	160	(40)	43	34	9	42	28	14	46	27	19	38	27	11	169	116	53
経営システム工学科	160	(40)	40	34	6	48	43	5	41	34	7	34	24	10	163	135	28
生物資源科学部	600	(150)	172	93	79	181	99	82	169	98	71	153	75	78	675	365	310
応用生物科学科	160	(40)	50	22	28	46	20	26	45	19	26	41	15	26	182	76	106
生物生産科学科	160	(40)	47	20	27	52	25	27	44	28	16	36	16	20	179	89	90
生物環境科学科	120	(30)	32	26	6	37	23	14	33	21	12	33	20	13	135	90	45
アグリビジネス学科	160	(40)	43	25	18	46	31	15	47	30	17	43	24	19	179	110	69
合計	1,560	(390)	417	310	107	463	345	118	403	296	107	383	274	109	1,666	1,225	441

大学院在籍者の状況

研究科名	定員	1年	2年	合計	
システム科学技術研究科	100	56	61	117	
博士課程 前期 総合システム工学専攻	機械工学コース	-	20(1)	17(1)	37
	知能メカトロニクスコース	-	7	11	18
	情報工学コース	-	9	12	21
	建築学コース	-	8	9	17
	経営システム工学コース	-	6(2)	4	10
博士課程 前期 共同サステナブル工学専攻	エレクトロモビリティコース	-	1	3	4
	社会環境システムコース	-	5	5	10
生物資源科学研究科	56	27	29	56	
博士課程 前期	生物資源科学専攻	56	27	29	56

研究科名	定員	1年	2年	3年	合計	
システム科学技術研究科	24	4	0	8	11	
博士課程 後期	総合システム科学専攻	24	4(2)	0	8(7)	11
生物資源科学研究科	15	5	3	5	12	
博士課程 後期	生物資源科学専攻	15	5(1)	3	5	12

学部生出身地域



## 学部進路状況

学部・学科名	卒業学生数		就職内定者			就職内定率
	進学希望者	就職希望者	167	県内就職	県外就職	
システム科学技術学部	232	58		167	38	129
機械工学科	55	22	31	3	28	100.0%
知能メカトロニクス学科	63	14	47	9	38	100.0%
情報工学科	33	10	21	5	16	100.0%
建築環境システム学科	36	7	29	8	21	100.0%
経営システム工学科	45	5	39	13	26	100.0%
生物資源科学部	133	32	97	25	72	100%
応用生物科学科	35	7	26	5	21	100.0%
生物生産科学科	33	9	23	7	16	100.0%
生物環境学科	28	11	16	5	11	100.0%
アグリビジネス学科	37	5	32	8	24	100.0%
合計	365	90	264	63	201	100%

## 大学院進路状況

研究科名	修了学生数		就職内定者			就職内定率
	進学希望者	就職希望者	59	県内就職	県外就職	
システム科学技術研究科(博士前期課程)	62	2		59	5	54
生物資源科学研究科	23	2	21	4	17	100%
合計	85	4	80	9	72	100%

## 主な就職先企業等

### 学部 システム科学技術学部

〈**県内就職**〉エイティケイ富士システム(株)、SCSK ニアショアシステムズ(株)、Orbray (株)、(株)角館芝浦電子、北日本コンピューターサービス(株)、(株)サンコーホーム、(株)ジェイテクト IT 開発センター秋田、TDK (株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)フジクラプリントサーキット、(株)北都銀行、ミネベアミツミ(株) 〈**県外就職**〉(株)アイシン、NECソリューションイノベータ(株)、(株)ジェイテクト、(株)SUBARU、セイコーエプソン(株)、大成建設(株)、東京エレクトロン(株)、TOYO TIRE (株)、(株)トヨタシステムズ、(株)乃村工藝社、バイオニア(株)、(株)ブルボン、リコー IT ソリューションズ(株) 〈**公務員**〉秋田県庁、奥州市役所、館林市役所、秋田県警察、厚生労働省 茨城労働局、国土交通省 東京航空局、国土交通省 北陸地方整備局、国土交通省 近畿地方整備局、防衛省 陸上自衛隊

### 生物資源科学部

〈**県内就職**〉秋田エプソン(株)、秋田おぼろ農業協同組合、(株)秋田魁新報社、秋田しんせい農業協同組合、秋田プリマ食品(株)、(株)角館芝浦電子、(株)タカヤナギ、(株)ナイス、ニプロファーマ(株)、東日本旅客鉄道(株) 〈**県外就職**〉(株)伊藤忠飼料、キョーリン製薬グループ工場(株)、小岩井農牧(株)、サトウ食品(株)、三幸製菓(株)、(一財)上越環境科学センター、(株)静環検査センター、全国農業協同組合連合会、東京青果(株)、日新製菓(株)、日東ベスト(株)、(株)ヤガイ、山梨銘醸(株)、ヤンマーアグリジャパン(株)、UCC 上島珈琲(株) 〈**公務員**〉秋田県庁、岩手県庁、福島県庁、千葉県庁、新潟県庁、男鹿市役所、大仙市役所、福島市役所、農林水産省 東北農政局

### 大学院 システム科学技術研究科

〈**県内就職**〉(株)秋田銀行、(株)ジェイテクト IT 開発センター秋田、TDK (株)、ミネベアミツミ(株) 〈**県外就職**〉アルプスアルパイン(株)、カワサキモーターズ(株)、(株)鴻池組、(株)サイバーエージェント、(株)JVC ケンウッド、(株)SUBARU、住友電装(株)、(株)ZOZO、東洋製罐グループホールディングス(株)、戸田建設(株)、トヨタ自動車(株)、(株)日本総合研究所、三菱電機(株)、ヤマザキマザック(株)、(株)リクルートホールディングス(株)、YKK (株) 〈**公務員**〉山形県教員

### 生物資源科学研究科

〈**県内就職**〉(株)秋田県分析化学センター、(株)あきたタウン情報、全国農業協同組合連合会、(株)マルタイ 〈**県外就職**〉(地独)青森県産業技術センター、カルビー(株)、(株)建設環境研究所、(株)湖池屋、(株)サイエンス、(株)シノテスト、(株)新日本科学、(独)中小企業基盤整備機構、中部飼料(株)、(国研)農業・食品産業技術総合研究機構、(地独)北海道立総合研究機構、ヤマダイ(株)、雪印メグミルク、(株)渡辺採種場 〈**公務員**〉静岡県庁、農林水産省 本省、農林水産省 関東農政局

## 主な進学先大学院

秋田県立大学大学院、北海道大学大学院、東北大学大学院、秋田大学大学院、筑波大学大学院、埼玉大学大学院、上越教育大学大学院、富山県立大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学、神戸大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学

# データベース 研究紹介

本学には、工学系のシステム科学技術学部、バイオ・農学系の生物資源科学部、農工融合の研究を行っているアグリイノベーション教育研究センター、木材に特化した研究を行っている木材高度加工研究所、教養系として総合科学教育研究センターがあり、それぞれが特色ある研究を行っています。

所属	学科名	グループ名	研究課題名
システム科学技術学部	機械工学科	応用材料力学	新規複合材料の創製と性能評価・検査技術の開発
		先端材料	先端材料の創製とその機能・特性の評価と最適化
		熱流体	熱流体科学を基礎とした環境、エネルギー、安全に関する基礎研究とその産業応用研究
		電磁場ダイナミクス	電磁場を用いた機械システム・流体システムのダイナミクスに関する研究
		応用機械設計	放電やプラズマ・レーザーを利用する環境低負荷技術、地球環境に適合したエネルギー利用とバイオ燃料の熱特性、機械的微粉砕によるバイオマス利用、及びそれら機械的構造物の動的設計に関する研究
		先端加工	精密加工製作技術の開発
	知的メカトロニクス学科	ロボティクス	先端計測・ロボットシステムに関する研究
		創造機械工学	末路領域に向けたシステム創造および人工知能の応用・社会実装に関する研究
		電気電子応用システム	電気電子システム工学に関する応用研究
	情報工学科	先進物性デバイス	光・電子デバイス、電子材料・半導体集積回路に関する研究
		情報システム	情報システムのシステムデザインならびに要素技術に関する研究
		知能システム	数理・AI・機械学習・シミュレーション等の技術を駆使して人間を知的に支援する知能システムに関する研究と、農業・情報教育等への応用
	システム環境学	メディア情報処理	メディア情報処理技術に関する研究と、臨場感の高い3D音場の收音、伝送、再生や、交通安全、画像情報解析等の人間支援情報システムへの応用
		建築構造学	建築物の構造的安全性と耐震性に関する研究
		建築材料学	循環型社会に向けた建築材料の開発及びその活用と高耐久化技術に関する研究
		環境計画学	健康・快適性と省CO2性能に配慮した建築環境計画に関する総合的研究
	経営システム工学科	都市・建築計画学	都市・建築空間の計画と設計に関する研究
		経営企画	事業構想とその実施のための経営管理手法の体系化とイノベータ教育を通じた地域活性化への適用
		先端ビジネスマネジメント	農業・医療の発展に資するデータ収集・活用技術の研究
		計画数理	経営システム工学における数理的手法の理論と応用に関する研究
		経営データ分析	データ分析のための数理最適化に基づく基盤技術に関する研究
		社会環境シミュレーション	人工知能 (AI) とデータサイエンス (DS) を社会に役立てるサイバーフィジカルシステム (CPS) の実現および地域経済のための問題解決手法の確立と応用
	生物資源科学部	科学科 応用生物	環境マネジメント
微生物機能			微生物機能の解明とその応用に関する研究
動物機能			動物細胞の分子細胞生物学的な研究に基づく機能の解明とその応用
植物機能			植物関連物質の探索や機能解明または利用に関する研究
生物生産科学科		食品醸造	食品および酒類の高品質化に関する研究
		植物生産基礎	持続可能な植物資源生産技術の基礎理論並びに応用に関する研究
		植物遺伝・育種	植物機能を制御する分子機構の解明と植物育種技術の開発
		植物生理	植物における炭水化物を中心とした代謝機構の解明と植物資源の利用技術の開発
		分子シグナル制御	生物 (植物や昆虫など) の生態 (分化や生存戦略など) に関与する分子シグナルの生命科学研究
科学科 生物環境		植物資源創成システム	植物資源創成システムの研究
		陸域生物圏	陸域生物圏における環境の多様性と持続的な管理手法に関する研究
		環境管理修復	質的に悪化した土壌・水環境の修復と適正管理技術、並びに資源循環技術の開発に関する研究
		地域計画	地域の資源と環境の評価に基づく地域計画の理論と実践方策に関する研究
ネクスティ学科	基礎生命科学	リポタンパクの測定方法の開発	
	アグリテクノロジー	秋田県の地域性を活かした作物、園芸および畜産の技術開発	
	ルーラルエンジニアリング	ほ場から流域スケールを見据えた農業生産基盤の管理・保全技術の創出	
AIC	アグリビジネスマネジメント	構造転換期における農業・農村の持続的発展条件の解明と次世代型アグリビジネスの展開方向	
	フィールド農学	大規模省力的・高収益な農業生産システムの実証研究	
木高研	木質科学	森林資源を活用した持続的な資源循環型社会の形成	
総合センター	人間科学	現代社会における人間理解—人間科学的アプローチ—	
	英語	理系の公立大学における実践的英語教育推進のための基礎研究および実践研究	
耕セナー		航空機用電動燃料ポンプ性能評価試験技術の獲得／穀殻ボイラーの開発	



# データベース 決算／外部資金

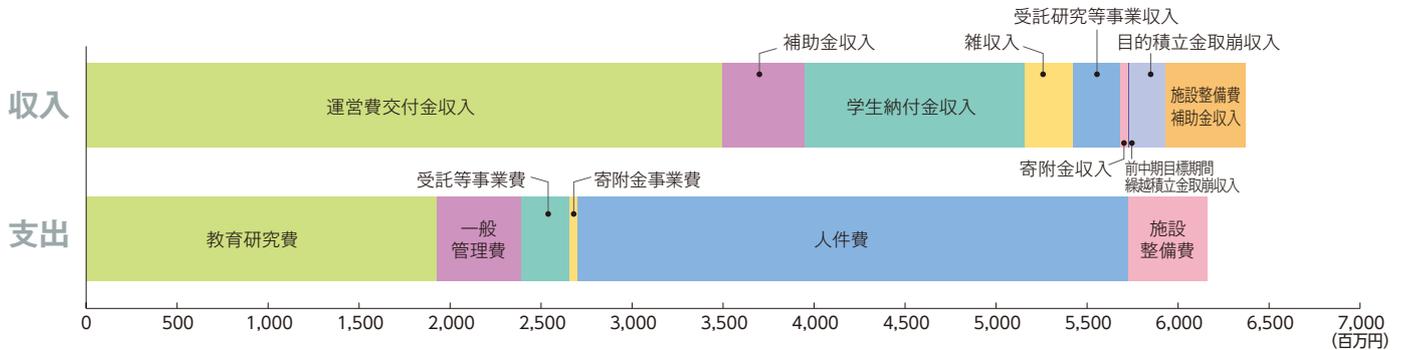
## 決算報告

令和5年度(単位:百万円)

収入	
運営費交付金収入	3,498
補助金収入	454
学生納付金収入	1,209
雑収入	270
受託研究等事業収入	259
寄附金収入	41
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	6
目的積立金取崩収入	203
施設整備費補助金収入	442
<b>合計</b>	<b>6,386</b>

支出	
教育研究費	1,929
一般管理費	464
受託等事業費	266
寄附金事業費	43
人件費	3,029
施設整備費	442
<b>合計</b>	<b>6,175</b>

収入－支出 210

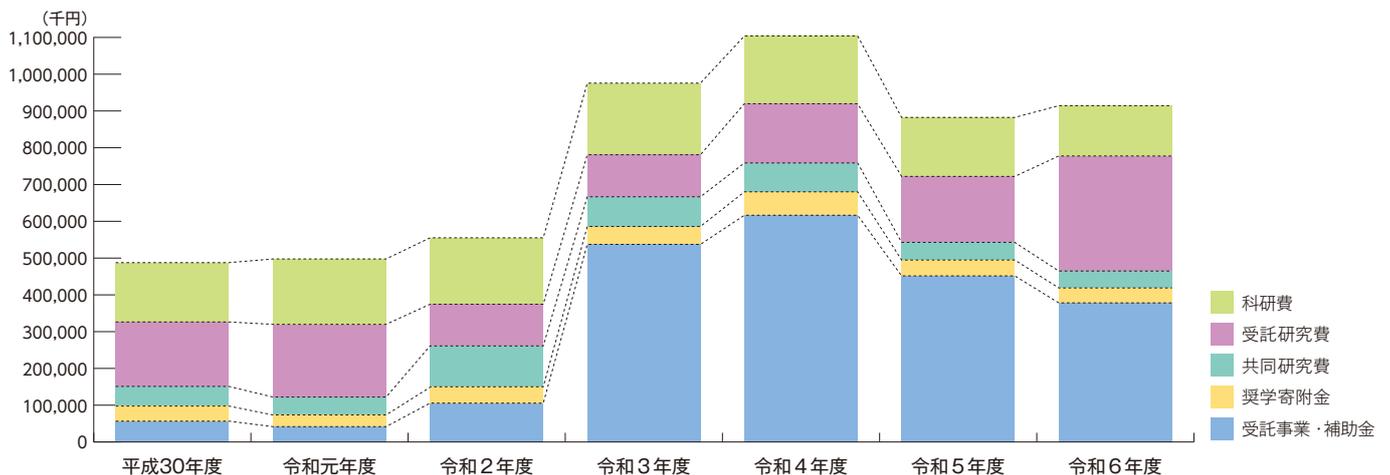


## 外部資金の受入状況

平成30年度～令和6年度(単位:千円)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	数	金額	数	金額	数	金額								
科研費	96	161,344	94	177,716	101	180,599	98	194,715	91	184,265	95	160,433	85	136,777
受託研究	62	175,264	60	197,733	41	113,398	47	114,288	60	161,130	62	179,322	59	312,778
共同研究	100	53,467	112	48,624	121	111,138	117	80,738	126	78,418	122	47,927	94	46,018
奨学寄附金	48	40,939	43	31,857	50	44,347	50	48,671	47	63,735	42	43,176	38	40,577
受託事業・補助金	86	56,631	76	41,673	70	105,632	66	537,253	81	616,417	80	451,591	82	378,195
<b>小計</b>	<b>392</b>	<b>487,645</b>	<b>385</b>	<b>497,603</b>	<b>383</b>	<b>555,114</b>	<b>378</b>	<b>975,665</b>	<b>405</b>	<b>1,103,965</b>	<b>401</b>	<b>882,449</b>	<b>358</b>	<b>914,345</b>

※科学研究費補助金・助成金:研究分担者分は除いた件数及び金額





# データベース 特許シーズ

## 特許・シーズ集（公開特許）

令和7年5月1日現在

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
発明届等届件数	11	12	25	16	22	14	13
特許等出願件数	16	16	25	16	16	11	11

特許番号	特許名
特許第 4792587 号	低カリウムホウレンソウおよびその栽培方法
特許第 5010344 号	鋳鋼片の表層処理装置及び鋳鋼片の表層処理方法
特許第 4851481 号	麹菌、及びそれを用いた清酒の醸造方法
特許第 5837734 号	植物への重金属吸収促進剤および土壌の浄化方法
特許第 5745754 号	クレードル式傘歯車創成装置を用いて傘歯車を製造する方法
特許第 5724131 号	吟醸香を産生する新規ビール酵母及び該酵母を使用したビール製造方法
特許第 5300993 号	低カリウム野菜を栽培するための水耕栽培用肥料及びその肥料を用いた低カリウム野菜の水耕栽培方法
特許第 5919034 号	皮革類の除菌方法
特許第 6592819 号	木質ボード及びその製造方法
特許第 6673705 号	哺乳動物の胚処理方法及び胚
特許第 6487304 号	水耕栽培方法、葉菜類、培養液、及び培養液濃縮組成物
特許第 6422188 号	水耕栽培方法、葉菜類、培養液、及び培養液濃縮組成物
特許第 6595347 号	音響材料及び楽器
US10195828B2	ACOUSTIC MATERIAL AND MUSICAL INSTRUMENT
602017012100.2	ACOUSTIC MATERIAL AND MUSICAL INSTRUMENT
ZL201710013998.2	音響材料及び楽器
特許第 6905239 号	CLT 同士を接続可能とした CLT
特許第 6548059 号	Fe 基合金組成物、軟磁性材料、磁性部材、電気・電子関連部品および機器
ZL 201780007609.3	Fe 基合金組成物、軟磁性材料、磁性部材、電気・電子関連部品および機器
KR.102231316.B1	Fe 基合金組成物、軟磁性材料、磁性部材、電気・電子関連部品および機器
US10950374B2	Fe 基合金組成物、軟磁性材料、磁性部材、電気・電子関連部品および機器
特許第 6944686 号	生分解性複合材料とその製造方法
特許第 6874956 号	セシウム吸収を制御する遺伝子およびセシウム低吸収性植物
特許第 6824519 号	ダイズ黒根腐病防除剤、ダイズ黒根腐病を抑制する微生物資材、及びダイズ黒根腐病防除方法
特許第 6299006 号	切削物、木質材料の製造方法及び木質ボードの製造方法
特許第 6504634 号	木質ボード
IDP74395	Cut Article, Method for Manufacturing Wooden Material, and Method for Manufacturing Wooden Board
IDP74396	Cut Article, Method for Manufacturing Wooden Material, and Method for Manufacturing Wooden Board
特許第 6299007 号	木質ボード及びその製造方法並びにマット状物
特許第 6504635 号	木質ボード及びその製造方法並びにマット状物
IDP73758	Engineered Wood, Method for Manufacturing Same, and Mat-Shaped Material
IDP73759	Engineered Wood, Method for Manufacturing Same, and Mat-Shaped Material
特許第 6966734 号	圧延加工による導電性高分子複合材料の製造方法およびその成形方法
特許第 6516711 号	コンクリート製人工礁
特許第 6795765 号	細胞膜穿孔用容器およびこれを用いた細胞膜穿孔方法
特許第 7120557 号	U9-1i クラスター検出用プライマー、ならびに、当該プライマーを利用した検出方法、定量方法、および、マンガン酸化細菌の核酸抽出方法
特許第 6964308 号	微生物産生マンガン酸化物の製造方法、重金属吸着方法、重金属吸着剤
特許第 6878751 号	土壌伝染性病害軽減材
特許第 7239136 号	難消化性澱粉高含有イネ変異体、米粉、難消化性澱粉、米ゲル、食品、及び難消化性澱粉高含有イネ変異体の作出方法
特許第 7232546 号	音響信号符号化方法、音響信号複合化方法、プログラム、符号化装置、及び音響システム
特許第 7241404 号	薄板木材樹脂接合体
特許第 7411186 号	伸縮増値
特許第 7401908 号	制振装置
特許第 7395185 号	回転電機
特許第 7421212 号	大気環境測定方法
特許第 6987179 号	動物忌避用杭
特許第 7606184 号	伸縮装置
特許第 7475676 号	回転電機
特許第 7539064 号	光ファイバおよび ASE 光源
特許第 7475001 号	マイクロフィブリル化セルロース成形体の製造方法およびマイクロフィブリル化セルロース成形体

特許公開番号	発明の名称
特開 2022-049004	木材処理方法、木材処理剤、及び木材加工品
特開 2023-041152	ダイズ土壌伝染性病害軽減材
特開 2023-009415	新規なダイズ根粒菌
特開 2022-167583	伸縮装置
特開 2023-039157	遺伝子組み換え細胞製造方法、培養方法、遺伝子組み換え細胞、発現ベクター製造方法、及び発現ベクター
特開 2023-064454	カーボンナチューブ複合樹脂薄膜およびその製造方法
特開 2023-087755	卵巣刺激器具及び卵巣刺激方法
特開 2023-124571	Fe 基ナノ結晶軟磁性合金磁心
特開 2023-164284	音声生成装置、音声再生装置、音声生成方法、及び音声信号処理プログラム
特開 2023-170209	木材積層体およびその製造方法
特開 2023-180085	接合構造
特開 2024-035278	鉄欠乏耐性付与ポブラ、鉄欠乏耐性付与ポブラの作出方法、及び鉄欠乏耐性付与ポブラの栽培方法
特開 2024-079881	床版持ち上げ木橋

特許公開番号	発明の名称
特開 2024-089069	根菜カリウム含有率測定方法及び根菜製造方法
特開 2024-106134	難消化性澱粉高含有イネ変異体、米粉製造方法、難消化性澱粉製造方法、米粉ゲル製造方法、食品製造方法、及び難消化性澱粉高含有イネ変異体の作出方法
特開 2024-109186	液晶デバイス、位相変調装置
特開 2024-114023	伸縮装置
特開 2024-141297	木材積層体およびその製造方法
特開 2024-142844	ガス分析装置およびガス分析方法
特開 2024-116642	イネ高温登熟障害程度推定方法及びイネ製造方法
特開 2024-142845	光ファイバの融着装置および光ファイバの融着方法
特開 2024-161712	構造物用コーティング剤および赤外線による計測システム
特開 2024-168932	非接触液面計
特開 2025-022552	Fe 基ナノ結晶軟磁性合金磁心、磁性部品、及び Fe 基ナノ結晶軟磁性合金磁心の製造方法
特開 2025-058570	信号伝送方法、信号生成方法、信号再生方法、音声信号処理プログラム、音声伝送装置、音声再生装置、及び音声伝送再生システム

# キャンパス概要



## 本荘キャンパス

システム科学技術学部  
大学院 システム科学技術研究科

- 共通施設棟
- ◎ 講義室◎CALL教室◎コンピュータ実習室◎図書館 等
- メディア交流棟
- ◎ ラーニング・commons◎カフェテリア◎売店 等
- 学部棟Ⅰ ● 学部棟Ⅱ
- 特別実験棟 ● 創造工房棟
- 体育施設棟 ● 大学院棟
- バイオマス実験棟
- 敷地面積20.5ha
- 施設延床面積49,343㎡  
(内大学院7,220㎡)



## 秋田キャンパス

本部・生物資源科学部  
大学院 生物資源科学研究科

- 共通施設棟
- ◎ 講義室◎コンピュータ実習室◎CALL教室◎カフェテリア◎売店 等
- 管理棟 ● 地域連携・研究推進センター棟
- 図書・メディア・講義施設棟 ● 学部棟Ⅰ
- 学部棟Ⅱ ● 学部棟Ⅲ ● 特別実験棟
- 体育施設棟 ● 課外活動施設棟
- 実験園場 ● 大学院棟 ● 植物工場
- 危険物保管庫 ● バイオテクノロジーセンター
- 敷地面積40.9ha
- 施設延床面積37,831㎡ (内大学院4,494㎡)



## 大潟キャンパス

生物資源科学部  
(アグリビジネス学科3・4年次)  
アグリイノベーション教育研究センター

- 管理棟 ● 講義棟 ● 実験棟
- 研究棟 ● プロジェクト実験棟
- 図書室 ● 体育館
- アグリイノベーション教育研究センター
- ◎ ハイテク・ガラス温室◎畜舎
- ◎ 大型農業機械管理庫 等
- 学生寮(清新寮) ● 厚生会館
- 敷地面積207.3ha
- 施設延床面積30,204㎡



## 能代キャンパス

木材高度加工研究所

- 本館
- ◎ 図書室◎研修室◎研究棟
- ◎ 研究室◎ラウンジ◎分析室
- ◎ 電顕室◎恒温恒湿室
- 北試験棟
- ◎ 北計測室◎実験室
- 南試験棟
- ◎ 南計測室◎実験室
- 耐火試験棟
- 敷地面積6.4ha
- 施設延床面積8,725㎡



■ 能代キャンパス



■ 大潟キャンパス



■ 秋田キャンパス



■ 本荘キャンパス



航空機利用の場合

新千歳空港	約55分	秋田空港
羽田空港	約1時間10分	秋田空港
中部国際空港	約1時間20分	秋田空港
伊丹空港	約1時間30分	秋田空港

秋田新幹線「こまち」利用の場合

盛岡駅	約1時間30分	秋田駅
仙台駅	約2時間30分	秋田駅
東京駅	約4時間	秋田駅

高速道路利用の場合

盛岡I.C	約2時間10分	秋田北I.C
盛岡I.C	約2時間10分	大内J.C.T
盛岡I.C	約2時間20分	五城目八郎潟I.C
盛岡I.C	約2時間40分	能代南I.C
仙台宮城I.C	約3時間10分	秋田北I.C
仙台宮城I.C	約3時間10分	大内J.C.T
仙台宮城I.C	約3時間20分	五城目八郎潟I.C
仙台宮城I.C	約3時間40分	能代南I.C



シンボルマーク  
秋田県立大学の欧文の頭文字「A」をデザイン化。  
目録(線)を設定し、限りない未来に向かって学んでいく姿を表しました。

秋田キャンパス	◎本部 ◎生物資源科学部 ◎大学院・生物資源科学研究科	〒010-0195 秋田県秋田市下新城中野字街道端西241-438 TEL.018-872-1500 FAX.018-872-1670
本荘キャンパス	◎システム科学技術学部 ◎大学院・システム科学技術研究科	〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4 TEL.0184-27-2000 FAX.0184-27-2194
大潟キャンパス	◎生物資源科学部 【アグリビジネス学科3・4年次】 ◎大学院・生物資源科学研究科	〒010-0444 秋田県南秋田郡大潟村字南2-2 TEL.0185-45-2026 FAX.0185-45-2377
	◎アグリイノベーション教育研究センター	〒010-0451 秋田県南秋田郡大潟村字南6-5 TEL.0185-45-2858 FAX.0185-45-2415
能代キャンパス	◎木材高度加工研究所	〒016-0876 秋田県能代市字海詠坂11-1 TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924



秋田県立大学は  
(独)大学改革支援・学位授与機構の  
大学評価基準を満たしています。